

社会福祉援助技術演習 A		単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
		3単位	SR(演習)	2年以上
科目コード	CN3082	担当教員	君島 昌志 / 大橋 雅啓 / 佐々木 達雄 / 齋藤 征人 / 竹田 征子 / 千葉 喜久也 / 芳賀 恭司 / 長谷川 千穂 / 林 正海ほか	

※平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前入学者は、履修することはできません。

※社会福祉士を目指す方々を対象とした講義となります。

■科目の内容

この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習だけでは、今日の支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことは困難といえるでしょう。理論を実践に役立てるためには、専門的援助技術の学習とその体得が不可欠となります。

本演習では、社会福祉援助技術における理論や知識を踏まえた上で、特に、倫理・価値観、面接技法などの基本的なソーシャルワーク実践の方法・技術のいくつかを取り上げ、役割演技、グループ討議などを通し、統合的、主体的に学習することを目的としています。

■到達目標

- 1) 視点、モデル、アプローチなど社会福祉援助技術の枠組みが説明できる。
- 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、客観的な視点から説明できる。
- 3) 社会福祉の価値、倫理について説明できる。
- 4) 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。
- 5) 相談援助の過程を事例を通し具体的にイメージすることができ、説明できる。
- 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる。

■教科書（「演習 B・C」と共通）

白澤政和・中谷陽明・長谷川匡俊・上野谷加代子編『社会福祉士相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（第2版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

■履修登録条件

この科目は「社会福祉援助技術総論」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■在宅学習15のポイント（初版本の内容を基に作成しています）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	相談援助における基本技術（1） 人を理解する－「他者理解」と「自己理解」 人を理解する （第1部第1節）	「人を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「人を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：他者理解、自己理解	「人を理解する」ということは、「他者理解」、「自己理解」を意味することになるということを経点を学習しましょう。
2	相談援助における基本技術（2） 人を理解する－「他者理解」と「自己理解」 クライアントを理解する	「クライアントを理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「クライアントを理解する」ということは何かを考える。 キーワード：社会診断、社会的困難、ソーシャル・ケース・ワークの定義	「クライアント」という呼び名の意味するところは何か。リッチモンドの社会診断の定義を参考に学習しましょう。また、ソーシャル・ケース・ワークの定義について確認しましょう。
3	相談援助における基本技術（3） 人を理解する－「他者理解」と「自己理解」 他者の“こころ”を理解する （第2節）	「他者の“こころ”を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「他者の“こころ”を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：四つの枠組み、（ケースワーク）診断、アセスメント、クライアントシステム、意識、無意識、前意識、自我違和性、自我親和性、反復脅迫、心的外傷体験、世代間伝播、自我防衛、抑圧、同一視、洞察	他者の“こころ”を理解するとはどのようなことなのでしょう。か。「人」を「他者」に置き換えて考えてみましょう。四つの枠組みを参考にしましょう。
4	相談援助における基本技術（4） 人を理解する－「他者理解」と「自己理解」 自己の“こころ”を理解する	「自己の“こころ”を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「自己の“こころ”を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：感情転移、逆感情転移	自己の“こころ”を理解するとはどのようなことなのでしょう。か。事例を通して考えてみましょう。その際、感情転移、逆感情転移とはどういうことをいうのかも理解するようにしましょう。
5	相談援助における基本技術（5） 人を理解する－「他者理解」と「自己理解」 他者の“気持ち”を理解する （第3節）	「他者の“気持ち”を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「他者の“気持ち”を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：内容の理解、感情の理解、指示技法、非指示技法、意志療法、機能主義ケースワーク、クライアント中心療法	他者の“気持ち”を理解するとはどのようなことなのでしょう。か。「人」を「他者」に置き換えて考えてみましょう。ソーシャルワーカーAとBの面接を通し、その技法の違いについて理解してみましょう。
6	相談援助における基本技術（6） 人を理解する－「他者理解」と「自己理解」 自己の“気持ち”を理解する	「自己の“気持ち”を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「自己の“気持ち”を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：自己覚知、クライアント中心	自己の“気持ち”を理解するとはどのようなことなのでしょう。か。「人」を「自己」に置き換えて考えてみましょう。クライアント中心の考え方とは、そして専門職としての自己覚知の重要性について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	相談援助における基本技術(7) 人を理解するー「他者理解」と「自己理解」 他者の“行動”を理解する	「他者の“行動”を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「他者の“行動”を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：推論、断定	他者の“行動”を理解するとはどのようなことなのか。しょうか。「人」を「他者」に置き換えて考えてみましょう。「第三者によって観察可能になる」とはどのようなことなのかを考えてみましょう。
8	相談援助における基本技術(8) 人を理解するー「他者理解」と「自己理解」 自己の“行動”を理解する	「自己の“行動”を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「自己の“行動”を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：行動療法	自己の“行動”を理解するとはどのようなことなのか。事例を通し、自己の「行動」に対する記述の違いについて理解してみましょう。
9	相談援助における基本技術(9) 相談援助における面接の技術① 相談援助における面接の目的と特性	相談援助における面接の目的と特性について理解する。 キーワード：言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション	相談援助における面接の目的と特性について、「会話と援助的面接との相違」について理解しましょう。
10	相談援助における基本技術(10) 相談援助における面接の技術② 面接の基盤	面接の基盤(インテーク面接)について理解する。 キーワード：傾聴、共感的理解、支持	相談援助における、傾聴、共感的理解、支持について理解しましょう。
11	相談援助における基本技術(11) 相談援助における面接の技術③ 面接における基本的応答技法	面接における基本的応答技法について理解する。 キーワード：単純な反射、感情の反射、アンビバレントな感情の反射、言い換え、要約、情緒的な支持の提示	「面接における基本的応答技法」について、教科書を参照に具体的技法を理解しましょう。事例を通して、キーワードを理解しましょう。
12	相談援助における基本技術(12) 相談援助における面接の技術④ 面接の展開	面接の展開について理解する。 キーワード：準備、導入、展開、終了、波長合わせ	面接の展開について理解しましょう。その際、準備、導入、展開、終了それぞれの段階で行うべき具体的内容を理解しましょう。
13	相談援助における基本技術(13) 相談援助における面接の技術⑤ 非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションについて理解する。 キーワード：言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションについて、その効果とはなにかを具体的に理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	相談援助の実際（危機的状態にある相談援助の実際を理解する。（1））	<p>キーワードを中心に、教科書の事例を参照し、相談援助の実際の概況を理解することを目的としています。</p> <p>キーワード：児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレス</p>	教科書のビネット等を参照し、キーワードを中心に現在の相談援助の実際の概況を把握しましょう。
15	相談援助の実際（危機的状態にある相談援助の実際を理解する。（2））	<p>キーワードを中心に、教科書の事例を参照し、相談援助の実際の概況を理解することを目的としています。</p> <p>キーワード：児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレス</p>	教科書のビネット等を参照し、キーワードを中心に現在の相談援助の実際の概況を把握しましょう。

■レポート課題

※レポートの提出方法については p.135～136参照のこと。

1 単位め	<p>スクーリング事前課題（演習 A スクーリング申込締切日までに提出）</p> <p>社会福祉実践においては、援助者自身の「気づき・自己覚知」が大切です。なぜ、援助者には「気づき」が大切なのでしょう、あなた自身の体験を踏まえながら述べてください。</p>
2 単位め	<p>「バイスティックの原則」のうち、3つの原則を選び、実践やスクーリングでの体験を通して、援助のあり方を論じてください。</p>
3 単位め	<p>（スクーリング受講者）</p> <p>「演習A」のスクーリングを受講しての自身の振り返りを行いながら、社会福祉士として求められるものをまとめなさい。</p> <p>（スクーリング免除者：実習免除者とは異なります）</p> <p>社会福祉士に必要なとされる価値観にはどのようなものがあるか、まとめなさい。</p>

■アドバイス

1 単位め アドバイス

社会福祉実践において他者を援助するに当たっては、適切な他者理解が必要です。他者理解を得るためには、適切な自己理解が援助者としてはとても大切になります。利用者と向き合った時に自分自身の考え方や、性格、価値観などについての「気づき・自己覚知」が出てきます。過去の出来事が自分の性格や、癖、行動傾向などによって現在の自分が作り上げられています。ここでの「気づき・自己覚知」についてまとめてみることによって、自己理解に役立てることができます。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

また、社会福祉実践において援助者は、コミュニケーションを通して効果的な援助を展開していきます。コミュニケーションについては、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの理解が必要です。ここでは、言語コミュニケーションにおける自分自身についての「気づき・自己覚知」や非言語コミュニケーション（視線、姿勢、表情、音声、距離、位置）などについての「気づき・自己覚知」なども大切です。これらを通しての自分自身のコミュニケーションの特性についての「気づ

き・自己覚知」について感じたことをまとめてみることも大切です。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

あるいはこのレポート課題について、あらためて自分自身の日常生活における行動や考え方、癖などについての新たな「気づき・自己覚知」や、これまでの生活を振り返って感じた「気づき・自己覚知」、社会福祉専門職を目指すものとしての「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

2 単位め アドバイス

利用者理解を深めるためには、理論的な面をしっかりと理解するとともに、仕事やボランティアなどの実践活動、また、スクーリングでのロールプレイや日常生活における人間関係のなかで、対人援助の基本を考察しながら自らの資質を高めていく努力が求められます。

利用者主体とはなにか、最善の利益とはなにか。援助のあり方について実践的な面（職務・体験）と理論的な面（原理・原則）を結びつけながら論じてみてください。

また、バイステックの原則は7つありますが、選択した3つを必ず明記してください。

（スクーリング受講者）

3 単位め アドバイス

利用者の尊厳を守り、利用者主体の原則を実現するための社会福祉士の役割について考えてください。一般論としてだけではなく、演習Aのスクーリングを受講しての自身の体験をふりかえりも含めて、まとめてください。

（スクーリング免除者）

現在、社会福祉の制度やまた、それらをとりにく環境は大きく変わり、社会福祉援助技術にも新たな視点が求められています。それらの技術の基盤となる価値観や倫理観にはどのようなものがあるか、一般論ではなく演習や実践の体験とを関連づけながらまとめてください。

■レポートの提出方法

全単位共通

- ・ 1 課題につき 1 冊のレポート用紙を使用すること。
- ・ 字数は2,000字程度（最長4,000字程度）。

1 単位めについて

- ・ 提出締切はスクーリング受講判定日（5/31・6/15・6/30・9/30・11/30）必着。
- ・ レポート用紙の担当教員名は未記入で提出すること。
- ・ 返却はスクーリング受講申込締切日から約1カ月後になります。

2・3 単位めについて

- ・ 提出締切は、「演習B」を同年9～11月に受講希望する人は9/15（10/15でも可だが、「演習B」の受講は10月下旬以降で定員に余裕のある会場のみとなります）、翌年5～6月に受講希望する人は3/15 or 4/15。ただし2単位めについては、演習内容をより理解するために、スクーリング受講前までの提出をおすすめいたします。
- ・ レポート用紙の担当教員名はスクーリング時の教員名を書くこと（スクーリング受講前に提出の

2 単位め、スクーリング免除者の 3 単位めは未記入)。

■演習 A スクーリング受講条件

受講判定日 (6～7 月開講分：5/31・6/15・6/30、10～11 月開講分：9/30、1 月開講分：11/30) までに

- ① 「社会福祉援助技術総論」の 1・2 単位めレポートの提出
- ② 「演習 A」の 1 単位めレポートの提出
- ③ (入学後 1 年以上経過した方は) 認定単位を除き 20 単位以上の修得。

※5/31 までに申し込んで、受講条件の達成が 6/15 や 6/30 になった場合、受講可能なのは 7 月中旬以降で定員に余裕のある会場となります。

※7 月中旬以降の会場で定員に余裕がある場合、6/30 締切で申込を受け付けることがあります。

※「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「児童・家庭福祉論」「福祉社会学」「福祉法学」「福祉心理学」などのうち数科目の学習を進めるなど、十分事前準備をしてから受講してください。

■演習 A スクーリング申込手続

申込時の注意点

- ・『With』(3 月号や 9 月号頃を予定) 巻末の申込ハガキまたは用紙を郵送すること。
- ・必ず第 2 希望 (第 1 希望と同一不可) まで○をつけること (5/31 申込締切分のみ)。
- ・申込後の希望の変更は不可。

各申込日について

- ・5/31 締切の申込→6～7 月に受講を希望する方が申込みください。
※受講判定日 (5/31 or 6/15 or 6/30) までに受講条件を達成すること (早めに達成した方が希望の会場で受講できる可能性は高くなります)。
- ・9/30 締切の申込→10～11 月に新潟会場を希望する方がお申込みください。
※9/30 までに受講条件も達成すること。
- ・11/30 締切の申込→1 月に仙台会場を希望する方がお申込みください。
※11/30 までに受講条件も達成すること。

■スクーリング受講クラスの決定方法

- ・申込締切日までに条件を満たしている方は、原則第 2 希望まででの受講が可能です。
- ・それ以降の受講判定日に条件を満たした方は、希望会場に空きがあれば調整しますが、定員を超えている場合は無作為に振り分けます。
※申込みハガキに第 2 希望まで記入されていない方や、これまでにスクーリング受講料納入の遅延やスクーリングへの届出なしの欠席など、ルールをお守りいただけない方の優先順位は下がります。
- ・教員を指定することはできません。
- ・クラス分け決定後の受講日・受講地の変更は一切できません。

■スクーリング講義概要

『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。

■科目の評価基準・単位の認定方法

実践や説明40%+スクーリング試験60%で評価します。

※スクーリング時間内およびスクーリング試験において、ソーシャルワーク実践に関する基本的な視点や態度をどの程度身につけることができたかについて確認をしていただきます。その確認内容が、スクーリングで学んだことと著しく相違していると思われる内容である場合には再履修となります（スクーリング試験は60点以上必須。再試験・再レポートは一切ありません）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、スクーリングの申込みはあらためて必要ですが、既に合格済みのレポートは有効となります。

■体験学習

「演習 A」スクーリング最終コマ（8コマめ）の「体験学習・次年度実習ガイダンス」において説明をしますが、受講後に体験学習（3日間・福祉施設の現場体験）を実施していただきます。

※概要は『学習の手引き』3章 IV「社会福祉士国家試験受験資格」をご参照ください。

※平成25年度以前入学者は、平成29年度の実施まで体験学習費5,000円が必要。

※**実務経験により免除**の可能性有り。

※**実習免除者は不要**。

■養成課程履修費について

「演習 A」を受講した方（スクーリング免除者を含む）は、受講後に届く納入依頼書にて期限までに納入してください。

納入されない場合、「演習 B」が受講できなくなりますので、ご注意ください。

※「演習 I」の受講者は、納入の必要はありません。